

本 賞

朝日町笹川自治振興会・ かがやきプロジェクト

朝日町の東部、笹川上流の山合いの中山間地にあるのが笹川地区です。

人口減少が進み、地区の人口はとうとう300人を切りました。高齢化率はおよそ50%と住民の半数が65歳以上の高齢者です。

そんな笹川地区ですが、近年、特産品の生産に積極的に取り組んだり、10年ぶりに盆踊りを復活させるなど地域活動が活発な地域であると評判になっていて、魅力を感じた外国人家族など地区外からの移住者が増えています。(地区への転入・転居 H24年度5人→H25年度10人に増加)

こうした笹川地区の取り組みが、県や朝日町の目にとまり、昨年度、県の「定住・半定住受入モデル地域育成支援事業」の地域に指定され、新しい体制で取り組みを始めました。それが、「かがやきプロジェクト」です。

このプロジェクトは、地区内に「笹川のブランド化推進チーム」や「特産品の充実推進チーム」「交流・体験施設推進チーム」など8つのチームを作り、地元の人々がリーダー、サブリーダーとなって地域の活性化に取り組むものです。

住民たちは、ワサビや炭など特産品のブランド化に取り組む一方、鳥獣被害を受けにくい「実バラ」の栽培を始めました。また町が古民家を改修して来春に整備する交流体験施設を使って、定住・半定住につながる宿泊体験事業を行うために、石川県能都町など先進地域の視察を積極的に行っています。

笹川地区の人たちは、少子高齢化、人口減少という厳しい環境をものともせず、住民一人一人が笹川の将来を考えて自分のことから行動しています。

その姿は、東京一極集中を是正し、多様性を持った「住みやすい地方の復権」をめざす、国の「地方創生」の取り組みに重なるとともに、同じように少子高齢化、人口減少に悩む新川の各地域にとっても先導的なモデルとなることから、新川地域発展賞の本賞に推薦するものです。





特別賞

石川 歩 投手

(千葉ロッテマリーンズ)

富山県魚津市生まれ。魚津市立本江小学校3年生から本江スポーツ少年団で野球を始め、魚津市立西部中学校では軟式野球部に所属。

富山県立滑川高等学校では硬式野球部に所属するも甲子園出場はなかった。その後中部大学、社会人野球の強豪・東京ガスに進み、2013年のドラフト会議で読売ジャイアンツと千葉ロッテマリーンズの2球団から1位指名を受け、抽選でロッテが交渉権を獲得した。背番号は「12」1年間先発ローテーションを守り、10勝8敗、防御率3.43の活躍でプロ野球2014パシフィック・リーグ新人賞を受賞した。

本江小学校6年生の時、将来の夢を語る北日本新聞のコーナーに「プロ野球選手になりたい」とつづり、また昨年（一昨年末に）新川文化ホールで開催された魚津市民激励会では「目標は新人王」と答え、まさにそれが現実となった。

来（今）シーズンの開幕投手候補でロッテのエースとしての活躍が期待される。

1988年4月11日生まれ（26歳）

身長186cm 体重80kg 右投げ右打ち



地域社会賞

宇奈月モーツァルト 音楽祭実行委員会

宇奈月町温泉街がモーツァルトの音楽一色に包まれる「宇奈月モーツァルト音楽祭」がはじまったのは2010年、演奏曲目がモーツァルトに限られると言うユニークな音楽祭だが、プロ・アマ誰もが参加でき、5回を重ねて宇奈月温泉の新しい魅力となっている。公募による一般参加者は今年46組（内、県外8組）と過去最高となり、スペシャルコンサート等を含めた総出演者は、51組393名を数えた。演奏会場も宇奈月国際会館セレネを中心に旅館やホテルのロビー、お寺の本堂、公園の足湯、トロッコ広場、黒部川に架かるやまびこ橋など文字通り温泉街全体が演奏会場となり、二日間で延べ5,000名近い観客が楽しんだ。

この音楽祭は発足当初から実行委員会による手作りを旨としているが、黒部市の各団体、企業の協賛、そして多くのボランティアの協力があって成り立っている。また地元商店街も音楽祭に合わせ、モーツァルトに因んだ商品を販売するなど、街をあげて音楽祭という雰囲気醸成されている。

音楽祭に協賛して黒部市茶道連盟が主催したチャリティー茶会はモーツァルトを聴きながらお点前を戴くという趣向で人気を集めており、音楽祭には欠かせないものとなっている。

北陸新幹線の開業を控え、豊かな自然と人々を癒す温泉とが相俟って、「モーツァルト音楽祭」が宇奈月の更なる魅力と活性化に繋がることを期待したい。



地域社会賞

前沢カンナロード実行委員会

「前沢カンナロード」は、国道8号線の黒部警察署横から、市道新光寺前沢線沿いに伸びる延長1.5キロメートルのカンナを中心とした花の道であり、これまで優秀賞6回（花と緑の銀行）、最優秀賞2回（毎日新聞社、花と緑の銀行）、建設大臣賞2回、感謝状（黒部市長）等、輝かしい受賞の記録がある黒部市を代表する花の道である。

昭和59年に市制施行30周年記念と（株）YKK創業50周年記念のお祝いにアメリカ合衆国大統領ジミー・カーター氏が来市され、前沢地区にある宿泊施設を訪れるために通過する道路をカンナで飾ったことがきっかけで、以後「前沢カンナロード」と名付けた。

この花の道「前沢カンナロード」は、環境美化や異世代交流の場としての目的を果たしているが、毎年5月の連休中に球根を定植し、11月23日勤労感謝の日に球根掘りまで長期にわたる世話が要求される。

現在10団体がこの活動に協力を頂いている。（10団体：前沢自治振興会、前沢延楽会、前沢生産組合、前沢保育所保護者会、前沢小学校PTA、前沢体育協会、前沢ボランティア部会、前沢自治振興会OB会、黒部警察署、NPO法人明日育）

継続は力であり、地区の和の証であることを実感し、昨年で30年目を迎える。



カンナの植え付け



暑い中での除草



見事に咲きそろったカンナ



来年の為の球根掘



新人賞

中村成実さん

(上野方小学校6年・レスリング)

上野方小学校6年の中村成実選手は、小学1年生からレスリングをはじめ、様々な全国大会に出場し、何度も優勝している強豪選手。2014、中村選手は、さらなる快挙を成し遂げた。

7月25日～27日に東京・代々木体育館で行われた「第31回全国少年少女レスリング選手権大会・小学6年生32kg級」。レスリング競技は小学生まで女子の選手も男子の部に出場できることから、中村選手は、女子の部以上にレベルが高い男子のクラスに挑戦し、優勝を果たした。初めて男子の部に挑戦した去年は惨敗したが、その悔しさをバネに、今回は2度目の挑戦で栄冠を掴んだ。

中村選手は、高岡ジュニアレスリングクラブに所属し、週に2～3回、トレーニングを行っている。レスリングの他にも、高岡市の柔道教室に週2回、富山市の体操教室に週1回通う。週末は県外に遠征試合に行ったり、合宿を行ったりと、ハードな毎日を送っている。

そんな中村選手の夢は、オリンピックに出場すること。夢の実現ため、厳しい練習にも弱音を吐かず、頑張っている中村選手。今後の活躍に期待したい。





新人賞

飛山大河さん

(高志野中学校3年・陸上競技)

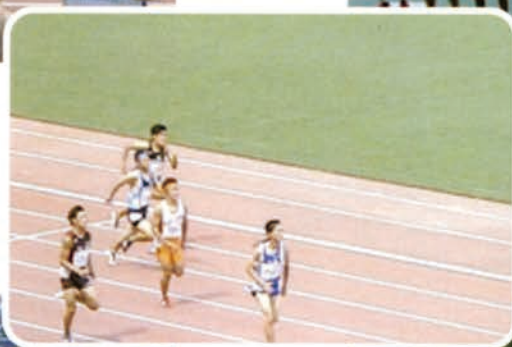
小さい頃から走ることが得意だった大河君。中学に入り頭角を現し、2014年富山県陸上競技選手権大会では100m(10秒81)200m(21秒96)と、共に「県中学校新記録」を達成しました。

標準記録を(100m、10秒90)を突破した選手のみが出場できるジュニアオリンピック2014にも参加。男子A100mにおいて3位というすばらしい成績を上げ、国民体育大会では高校生と一緒に競技する少年B100mにも出場しました。その他、北信越中学校総合競技会200m(1位)全国中学校体育大会200m(7位)等、その活躍は目覚ましいものがあります。

本人も、オリンピックを目指すと明言するほど、この新川地区のみならず、富山県陸上界に期待の新人が現れたと期待されています。

まだまだ、伸びしろがいっぱい的大河君にはぜひ、2020年東京オリンピックを視野に入れて、頑張ってもらいたいものです。

めざせ！未来のオリンピック！



奨励賞

入善町ジャンボ西瓜生産組合 島瀬 登氏

「入善ジャンボすいか」は、富山を代表する夏の特産品のひとつ。楕円形という形と、15～25kg近くにもなる日本一の大きさ、さん俵といわれる草履のような座布団に梱包されたユニーク姿から、全国的にも有名になっている。

昭和57（1982）年に、入善町の特産であることを強く打ち出そうと今の名前に改名された。長い栽培の歴史の中で改良が重ねられ、きめ細やかな管理により、高い品質が保持されている。また、名水に恵まれたこの地で、大地の栄養をしっかりと吸って、果汁と甘味たっぷりのおいしいすいかに育ち、毎年、7月下旬から8月上旬にかけて、全国へ出荷されている。

島瀬登さんは長年入善ジャンボ西瓜生産組合長として尽力してきました。現在入善町内の生産者は15名。富山県のブランドで町の特産品ですが、日本の中で生産規模では一番小さい。1人でも2人でも西瓜づくりに挑戦してほしいと願っています。





奨励賞

櫻井 麻那さん

2014年3月に行われたNHKのど自慢チャンピオン大会で、魚津市在住 呉羽高校2年の櫻井麻那さんが、見事、グランドチャンピオンに輝いた。

2014年夏には、櫻井さんの母でシンガーの森内ゆう子さんと共に「親子デュオコンサート」を新川文化ホールで開き、大盛況を収めた。また、親子でのオリジナル曲、それぞれのソロのオリジナル曲を収録したCD「夢へのかけ橋」をリリース。櫻井さんの透明感ある伸びやかな歌声は多くの人を魅了している。

小さい頃から市民ミュージカルなど様々なステージに立ってきた櫻井さんの夢は、「ブロードウェイの舞台に立つこと」。未来のミュージカルスターを応援する意をこめ奨励賞を贈る。



青少年育成賞

魚津市立東部中学校 男女駅伝チーム

北日本新聞金鷲旗争奪富山県中学校駅伝競走大会は、全国大会への出場権をかけた中学陸上の花形競技として毎年熱戦を展開している。男女ともに80校以上が参加し、会場の富山県総合運動公園陸上競技場（富山市南中田）クロスカントリーコースは歓声と熱気に包まれる。近年のマラソン、ランニングブームで県民の関心も高く、選手の競技レベルも年々上がっている。

こうした環境の中、抜群の強さを発揮して注目されているのが魚津東部中学の男女駅伝チームだ。10月4日に行われた本年度大会では、男子（31回大会）が優勝、女子（23回大会）が準優勝という成績を収めた。前年大会では女子が優勝、男子は5位で、女子の連覇と男女アベック優勝の期待も現実味を帯びていた。同校の安定した強さは他チームにとって脅威でもある。

強さの理由は様々ある。東京国際マラソンで日本人トップの成績を挙げた間野敏雄さん（魚津市体育協会）率いるマラソンクラブチーム「team MANO」での練習や指導もそのひとつだ。多くの選手が所属し、小学生や高校生とも一緒に汗を流している。もちろん、魚津東部中学校や地元校区の支援、応援が根本にあり、地元が一丸となっているところが最大の要因であろう。

東中生の活躍は、小学生の憧れや目標であり、高校生らの励みともなっている。青少年の健やかな成長に大きな貢献をしている。



■男子総合順位（1位）（59' 26"）

- 第1区 細野 丈二君
- 第2区 北ケニスウェイン君
- 第3区 只石 佳暉君
- 第4区 山口 龍之介君
- 第5区 濱田 航平君
- 第6区 間野 健太郎君(区間賞)



■女子総合順位（2位）（43' 37"）

- 第1区 中嶋 亜美さん
- 第2区 北 京蘭さん
- 第3区 泉 明里さん
- 第4区 元起 光里さん
- 第5区 石浦 藍里さん(区間賞)